



渡辺しんじ (公明党)

1. 疲れ果てる子ども ヤングケアラー支援へ
2. 子どもの医療費助成、拡充へ

問 実態の把握が難しいヤングケアラー(家族の介護や世話を担う18歳未満の子ども)の問題。国の調査によると中学・高校の1学級に1~2人のヤングケアラーがいるということがわかった。子ども達と直接、関わっている教育現場の教員が、研修などを行い、現場力を活かし、実践力を発揮して、実態把握に取組んでほしいが、見解を伺う。

答 校長が先頭に立ち、毎日、子ども達と向き合っている先生が意識を高くもって積極的に取組んでいく。

問 現在の市民サービスの中で、支援につながるものはあるか伺う。

答 子ども家庭支援センターが中心になり、ヘルパーの派遣や保護者支援など複数の機関と連携をして支援に繋がっていくことができる。

問 青春は一度だけ。楽しい思い出が作れない子ども達に支援の手を差し伸べてもらいたい。見解を伺う。

答 関係機関と連携して、スピード感をもって対応する。



岩永ひさか (フェアな市政)

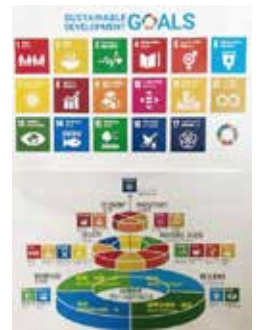
- 多摩市気候非常事態宣言から1年
~その取組みについて

問 アフターコロナ、ポストコロナ時代を見据えて、長期的な視点からまちづくりを考えるべきではないか。人権、平和、経済等あらゆる人間活動は健全な地球環境の上に成り立っている。「SDGs ウェディングケーキモデル」を意識することが必要と考える。改めて、昨年、市長と議会の共同で行った「気候非常事態宣言」を最優先、最重点事項とした取組を進めていくべきではないか。

答 温暖化対策、地球環境問題への対応は不退転の決意で取組んでいかねばならない。この10年は非常に重要だ。二酸化炭素削減、廃プラスチックの削減、生態系への配慮を含めて、しっかり取組みたい。

問 地球環境問題を「自分事」と捉え、一人ひとりの市民の消費者行動を変えていくことが必要。公式ホームページや身近な公共施設でのポスター掲示など、認知度を高める工夫をすべきではないか。

答 新型コロナウイルス禍ではあるが、地球環境問題は「待ったなし」であると考えている。工夫していきたい。



SDGs17の目標とウェディングケーキモデル

補正予算の質疑では こんなことが話題になりました

民生費 社会福祉総務費

生活困窮者等支援事業

↳ 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金

●生活の自立につながるいいな支援を

本事業は新型コロナウイルス禍が長期化し、生活困窮者世帯が増加していることに伴う国の支援事業であり、国の100%負担により実行されるものですが、現況に鑑み、単に支援金を支給するだけでなく、生活の自立をめざした就労支援や家計相談などにもつなげる目的があり、「しごと・くらしサポートステーション」との連携を進めることが必要です。今回、申請窓口を「しごと・くらしサポートステーション」内に設置し、市職員を配置して申請受付を行い、相談につなぐ意義は大きく、市民の困りごとを敏感に受け止め、市民の実態把握に努めてほしいといった意見がありました。

●生活保護制度の利用も視野に入れた相談を

また、今回の制度による3カ月間の支援金支給期間だけで求職活動から就労、自立することが困難な場合も想定されるため、生活保護制度を適切に利用することを促す視点も大切との指摘がありました。

第2回定例会では、今年度の多摩市一般会計補正予算(第3号・第4号)について、次のような議論がなされました。

総務費 青少年対策費

子ども若者育成支援事業

↳ フードパントリー設置事業補助金

●コロナ禍の中「食」を支援する

子ども若者育成支援事業として、今回は特に「フードパントリー設置事業補助金」が東京都の100%負担により実行されることになりました。これによって食料の保管場所が確保できるため、子ども食堂等と話し合って今後の展開を考えるとのことです。在庫管理をどうするかという質問があり、「バーコード方式の管理システム導入に関しては「PCやITシステムも補助対象になる」との答弁がありました。

事業目的に関する質疑では、「単に食料支援を行うだけでなく、その他の困りごとを掘り起こし総合的な支援につなげたい」という行政の意図が確認されました。議会からは「子ども・若者の困窮実態をいかにつかむか」という点で、所管だけでなく福祉部門との連携が必要ではないかという指摘がありました。

